（様式１）

令和８年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立本所中学校
校長名	松塚　智加子

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
①中１ 小学校学習内容の定着状況は、前年度比で大幅に向上している。理科を除く4教科の校内平均正答率が区及び全国平均を上回った。標準スコアは国語54.1、社会51.0、数学53.7、理科49.9、英語56.3といずれも前年度を上回った。達成率は社会で47.4%から68.0%、英語で81.6%から98.0%へ向上した。 **②中２** 中1時からの同一集団の追跡において、全教科で標準スコアが前年度を上回った。達成率は理科で36.0%から52.7%（D・E層は64.1%から47.3%に減少）、社会で47.4%から57.3%（D・E層は52.6%から42.7%に減少）へ向上した。英語の校内平均正答率（63.7%）は、区平均（56.9%）を6.8ポイント上回った。 **③中３** 中2時からの同一集団の追跡において、数学および国語を中心に良好な定着を示している。数学の標準スコアは53.4と高水準を維持し、達成率は前年度67.0%から今年度72.7%へ向上した。国語の達成率は前年度72.3%から今年度77.1%へ向上し、校内平均正答率（69.4%）は区平均（65.2%）を4.2ポイント上回った。	**①中１** 理科において、平均正答率（50.9%）は目標値（50.8%）を上回るも、全国平均（51.0%）および区平均（52.1%）をわずかに下回った。D・E層の割合が38.4%存在しており、観点別の「知識・技能」（47.7%、目標52.3%）や、解答形式別の「短答式」（37.9%、目標43.9%）の定着が不十分である。 **②中２** 社会および理科において、標準スコアの同学年比較で昨年度からいずれも1.8ポイント低下した（社会49.7、理科49.3）。今年度の目標値に対し、社会の「歴史」が38.2%（目標47.3%）、理科の「エネルギー」が33.3%（目標42.5%）と大きく下回っており、これら特定領域のつまずきが全体に影響している。 **③中３** 社会および理科において、平均正答率が目標値をわずかに下回った（社会48.9%、目標49.0%／理科44.3%、目標45.2%）。社会の「思考・判断・表現」（46.9%、目標49.2%）や、理科の「地球」領域（37.3%、目標42.1%）における定着に遅れが見られる。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
①中１ 「目標に向けていつもコツコツ学習している」生徒が68.7%、「テストでまちがえた問題をあとでやり直している」生徒が79.8%に達し、ともに区の令和10年度目標値（前者は65%、後者は74%）を上回っている。 **②中２** 「目標に向けていつもコツコツ学習している」生徒が70.0%、「テストでまちがえた問題をあとでやり直している」生徒が72.7%に達し、ともに区の令和10年度目標値（前者は55%、後者は59%）を大きく上回っている。 **③中３** 「目標に向けていつもコツコツ学習している」生徒が67.8%、「テストでまちがえた問題をあとでやり直している」生徒が64.3%に達し、ともに区の令和10年度目標値（前者は65%、後者は63%）をクリアしている。	**①傾向** 「目標に向けていつもコツコツ学習している」及び「テストでまちがえた問題をあとでやり直している」に関する調査では、全学年を通して概ね肯定的な回答が見られた。一方で、目標を意識した継続的な学習習慣や、テスト後の振り返り・やり直しが十分に定着していない生徒も一定数存在する。特に、２年では主体的に学習へ向かう意識の向上、３年ではテスト後のやり直しの習慣化に課題が見られた。 **②対策** 全学年を通して、目標設定に基づく計画的な家庭学習の定着を図るとともに、テスト後の誤答分析や学習の振り返りを継続的に指導する。また、学習計画の立案から改善までのサイクルを意識させ、自ら課題を発見し解決する学習態度の育成を図る。さらに、学年の実態に応じて、主体的に学習に向かう意欲の向上や振り返りの習慣化を重点的に支援していく。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

全国学力・学習状況調査から

成　　果	課　　題
本校は、国語70.0%、数学66.0%と、ともに東京都平均及び全国平均を上回った。また、英語のIRTスコアは543で、東京都530、全国499を上回り、全教科において高い学力水準が認められた。国語の「書くこと」75.1%、数学の図形領域62.4%・関数領域66.4%、英語の聞くこと・読むことに関する問題で高い正答率を示しており、自分の考えを表現したり、情報を活用したりする力が身に付いていることがうかがえる。	国語では「文章の内容や表現の効果について根拠を示して説明する問題」、数学では「累積度数などのデータ活用に関する問題」、英語では「自分の経験や考えをまとまりのある文章で表現する問題」に課題が見られた。 また、各教科に共通して、資料や文章から読み取った内容を根拠にして説明したり、自分の考えを論理的に記述したりする力をさらに伸ばしていく必要がある。

2　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）確かな学力の育成に向けた日常的な指導の充実

○「問題データベース」を活用した全校朝学習

毎朝の朝学習において、区から提供されている「問題データベース」から印刷したプリント教材を計画的に活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。

○数学・英語における少人数・習熟度別指導

数学及び英語において、「東京方式 少人数・習熟度別指導ガイドライン」に基づく授業を実施する。一人一人の学習状況に応じた指導を行い、学力の定着と伸長を図る。

○「指導と評価の一体化」に向けた校内授業研究

分科会ごとの指導案検討や研究授業後の研究協議を通して、授業のねらいを明確にするとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を組織的に推進する。

○根拠を明確にして説明する力の育成

各教科において、資料や文章から読み取った内容を基に、自分の考えを根拠とともに説明したり記述したりする学習活動を計画的に取り入れる。言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

（２）AI 型ドリル教材の活用と振り返りによる自律的な学習習慣の確立

○AI 型ドリル教材による個別最適な学びの充実

AI 型ドリル教材を各教科の授業や家庭学習で効果的に活用し、生徒一人一人の習熟度に応じた学習機会を確保する。

○「ふりかえりシート」等による学習改善サイクルの定着

定期考査や単元末テスト後に振り返りを行い、「ふりかえりシート」等を活用して誤答分析や解き直しを実施する。学習計画の見直しにつなげ、自ら学びを改善する力を育成する。

（３）組織的 PDCA の確立

○組織的な PDCA サイクルの確立と働き方改革の推進

学力向上委員会を中心に学力向上プランの進捗管理を行うとともに、自動採点ソフトや ICT 機器の効果的な活用を進め、教員の授業改善に充てる時間を確保する。

3　「令和９年度 墨田区学習状況調査」の目標

・A・B 層の割合について、国語・数学・英語は全学年で 55%以上を維持し、社会・理科は全学年で 40%以上を達成する。D・E 層の割合について、全教科で減少を図り、国語・数学・英語は 35%以下、社会・理科は 40%以下とする。

・「目標に向けていつもコツコツ学習している」及び「テストでまちがえた問題をあとでやり直している」と回答する生徒の割合について、全学年で 70%以上を達成する。